

とうかい

水土里フォーラムかわら版



(号外)

2008. 8月

～農業・農村耳より情報～

＜愛西市 森川花はす田 今年の蓮見の会の様子＞



Contents

- おまつり探訪・・・郡上おどり（岐阜県 郡上市）
- 特産品あれこれ・・・渥美アールズ（愛知県 田原市）
- 農地・水・環境保全対策・・・「多気町勢和地域 資源保全・活用協議会」（三重県 多気郡 多気町）

♪ひ～らいた ひ～らいた レンゲの花がひ～らいた・・・♪（愛知県 愛西市）

わらべ歌で唄われているレンゲ（蓮華）の花は、レンゲソウではなくハスの花のことだそうです。気高く清らかな花を咲かせて初夏を彩るハスの花は、仏教思想と強く結びつき、極楽浄土を象徴する花として重用されています。

木曾川の東に位置する愛西市では、土地が水面よりも低かったため水害が多く、その反面、土地は肥沃でレンコンの栽培に適していたことから、旧立田村を中心にレンコン田を多く見ることができ、愛知県のレンコン生産量は、茨城県、徳島県に続き全国第3位となっています。

また、食用のレンコンの生産が有名なのはもちろんです。花はお盆などの仏事用として、また蓮台、葉、巻葉も生産されています。

ハスの花は7～8月の早朝に芳香を放って開き、一定時間経つと閉じてしまいます。そして、咲き始めて4日間程で花弁は散ってしまいます。

愛西市では、毎年7月に「森川花はす田」にて「蓮見の会」を開催しております。また、32種類のハスを一堂に集めた「立田赤蓮保存田」もあり、ハスの花を楽しむ県内外からの観光客で賑わっています。（当地区は、平成16年 東海農政局「東海美の里百選」に選ばれています。）

＜アクセスmap＞



写真・地図提供: 愛西市

奥美濃の小京都「郡上八幡」は、市街地を清流吉田川が流れる名水の町として全国的に知られていますが、なんといっても有名なのが「郡上おどり」です。約400年の歴史を持つ郡上おどりは、国の重要無形民俗文化財に指定されており、♪「郡上のナ～八幡出て行く時は～」でお馴染みの「かわさき」をはじめ、軽快なリズムの「春駒」など10曲があります。

町のあちらこちらで約30夜を踊り明かしますが、なかでも徹夜おどり（8月13日～16日の4日間）は、全国各地から浴衣姿に下駄履きの老若男女の踊り手達がたくさん集まり、翌朝まで踊り明かします。唄、笛、太鼓等のお囃子が流れる屋形の周りを、七重八重に踊り手達の輪が広がり、踊りに下駄の音がマッチするその様子はまさに圧巻です。



写真提供: (社)岐阜県観光連盟

◎郡上おどりの主な日程

7月12日	郡上おどり発祥祭
8月13日～16日	徹夜おどり
9月6日	おどり納め

◎アクセス

- 東海北陸自動車道
一宮JCT～郡上八幡I.C. (約45分)
- 岐阜長良川鉄道
美濃太田駅～郡上八幡駅 (約90分)

◎お問い合わせ先

郡上八幡観光協会

住所 〒501-4222

岐阜県郡上市八幡町島谷520-1

郡上八幡旧庁舎記念館内

TEL (0575) 67-0002

FAX (0575) 67-1771

URL <http://www.gujohachiman.com/kanko/>

愛知県のメロンは渥美半島を中心に栽培されており、田原市は市町村別で全国第7位、県では全国第6位のメロン生産額を誇っています（平成18年度生産農業所得統計）。渥美半島のメロンは昭和7年頃から栽培され始め、昭和60年代に品種統一を図りました。これが「渥美アールス」で、良く育ち、

果実のネット形状・肉質・糖度が優れている純系のメロンです。

現在では、耐病性や日持ちの問題から他の品種が主流となり、少数の農家で栽培されるだけとなりましたが、地元のスーパーなどで販売されています。例年6月半ばから出荷が始まり、お盆にピークを迎えますので、この時期に渥美半島へお出かけの際には、地元のおいしいメロンを是非ご賞味下さい。



情報提供: JA愛知みなみ

◎今回紹介しました「渥美アールス」は、「あいちの伝統野菜」に選定されています。

毎年、あじさいの咲き誇る6月に立梅用水創設功労者「西村彦左衛門」の偉業をたたえ、「大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」を開催し、「水・土・里の大切さ」をたくさんの人に紹介しています。

この催しも今年で12回を数え、普段「地域づくり活動」を共にする町内外の多様な主体である57団体、855人の関係者がこのお祭りを盛り上げました。来場者数も約1万2千人に上り、年々その数は増えてきています。

あじさいまつりは、多気町丹生大師の里周辺の立梅用水や周辺の農地を利用した、「マス釣り」、「立梅用水ボート下り」、「田んぼの綱引き大会」、「田んぼのコンサート」、など沢山の催しがあります。中でも「立梅用水ボート下り」は待ち時間を設けなければ乗れないほどの盛況でした。きっと、楽しい時間を満喫してもらえたことと思っています。

休耕田を利用した「農村のピオトープ体験」のコーナーでは、そばで見ていた親御さんとは裏腹に、子供たちは興味津々。カエルやイモリを平気で手にとってさわる子供もいました。

私たちは、こうした催しをとおして、農村の「水（み）・土（ど）・里（り）」がもたらしてくれる恵みをみなさまに知っていただき、それが国民全体の共有財産であることを感じてお帰りいただけたら、と祈っています。



盛り上がる田んぼの綱引き大会



立梅用水ボート下り



賑わうあじさいの小径



田んぼのコンサート

●お問い合わせ先

東海農政局整備部設計課 水土里フォーラム事務局

〒460-8516 名古屋市中区三の丸1-2-2 TEL052-223-4634 FAX052-219-2667

E-mail アドレス：NNmagazine@tokai.maff.go.jp URL：http://www.maff.go.jp/tokai/